

大地申第7号

2017年1月13日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社

支社長 阪本 未来子 殿

東日本旅客鉄道労働組合

大宮地方本部

執行委員長 森田勝美

「EV-E301系蓄電池電車追加投入に伴う 駅業務体制の見直しについて」に関する申し入れ

大宮地本は、「烏山線 ACCUM 増投入に伴う駅業務体制の見直しについて」提案を受け、職場議論を積み重ねてきました。

今施策は ACCUM の増投入に伴い、操車業務の体制が見直される施策ではありますが、議論を重ねていく中で営業職・輸送職が混在して作業ダイヤを運用している実態や、体制変更後においても異常時対応力を確保していくことが主たる課題であることが浮き彫りになってきました。「混み運用」を続ければ他職場から異動する場合の制限を与えてしまう事や、駅業務執行体制の課題が見えにくくなるだけでなく、自らの職名における役割の認識も薄れてしまいます。従って、職名に応じた作業ダイヤに従事できる体制とすることが必要であります。

また、職場からは雨に弱い烏山線の特情もある中で安全・安定輸送確保に対し不安視する声あげられているだけでなく、近隣駅での人身事故対応や車両故障対応等の異常時対応力が確保できるのか等、体制変更以降のメリットも感じられないのが現状です。

体制見直し以降において職名に応じた役割を担える体制及び、宝積寺駅のみならず線区の異常時対応力を確保できる体制を確立し、働きがいのある職場を構築するため、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

記

1. EV-E301系蓄電池電車追加投入に伴い宝積寺駅での操車業務等が廃止される根拠、及び廃止に伴い変化する業務内容を明らかにすること。
2. 施策実施のメリットを明らかにすること。また、実施以降想定される課題を明らかにすること。
3. 体制見直し以降も、宝積寺駅が「運転取扱い駅」「常時運転取扱い駅」と指定する根拠を明らかにすること。

4. 大宮支社管内で営業職と輸送職が混み運用を行っている箇所を示すこと。尚、速やかに宝積寺駅における混み運用を中止すること。
5. 営業職・輸送職の主たる役割を明確にし、職名に応じた業務に従事できる適正要員を配置すること。また、今後の宝積寺駅への新入社員配属に関する考えを明らかにすること。
6. 体制見直しに伴い、兼掌窓口の応援体制が薄くなるため対策を講じること。
7. 体制見直し以降において、異常時対応力を確保できる体制とすること。また、異常時対応フローを明確にし、周知徹底すること。

以 上